

## 事後評価報告書

畜産酪農技術センター課題評価会議

令和5年8月28日(金)

研究種別	一般研究課題	
研究課題名	ビニールハウス豚舎の快適性に配慮した肉豚生産技術の開発	
研究期間	令和3年度 ~ 令和4年度	
	評価項目	平均点
1	研究目標の達成度	4.2
[コメント] 近年の気候変動における夏場の気温上昇は生産現場にとって重要かつ喫緊の課題である。本課題ではビニールハウス豚舎の遮熱シートの選定から始まり、効果的な暑熱緩和手法の検討、それらの効果を最終的に肥育試験で確認し、低コストで効果的な対策となりうることを明らかにしており、目標は達成されている。冬期間における検討や生産された豚肉の品質評価もあればより実用化に資する知見となると考えられる。		

## 事後評価報告書

畜産酪農技術センター課題評価会議

令和5年8月28日(金)

研究種別	成長戦略課題	
研究課題名	採卵鶏における快適性に配慮した飼育方法の生産性評価	
研究期間	令和2年度 ～ 令和4年度	
	評価項目	平均点
1	研究目標の達成度	4.2
[コメント] エンリッチドケージでも、従来型のケージシステムと比較して飼料要求率などの飼養成績に差はみられないことを明快に示しており、当初の計画通りに目標が達成されたと評価できる。これらのデータをもとに県内の採卵鶏農家のアニマルウェルフェアを推進するとともに、簡易型エンリッチドケージ、平飼いなどの研究も進めて欲しい。		

研究種別	一般研究課題	
研究課題名	暑熱時における卵重増加のための栄養調整技術の開発	
研究期間	平成30年度 ~ 令和4年度	
	評価項目	平均点
1	研究目標の達成度	4.6
[コメント] 夏場は暑熱のため飼料摂取量が減少し、産卵率が低下し卵質が悪化する。結果は有意差は認められなかったが、卵重増加と卵殻質改善の傾向が見られたことから、計画した目標は達成できたと考えられる。アミノ酸等の使用によるコストと、卵重増加等の効果が試算されているが、農場で実証試験を行い、より実用性を高めてほしい。広く普及できる技術となることを期待する。		

研究種別	成長戦略課題	
研究課題名	甲州牛増産のための集約的採卵プログラムの確立	
研究期間	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度	
	評価項目	平均点
1	研究目標の達成度	4.6
[コメント] 繁殖雌牛の少ない山梨県で、短期間で効率的な受精卵の生産が可能となる技術であり、開始時に設定した目標は達成できたと考えられる。また、処置数の大幅な低減が図られており、労力と牛へのストレスを軽減できる。牛や季節が変わっても同様の結果が得られるか、同じ牛で何年も採卵を継続しても同様の効果が得られるかどうか、継続して調査を行ってほしい。		

研究種別	一般研究課題	
研究課題名	不耕起および簡易耕を活用した飼料用トウモロコシの省力栽培技術	
研究期間	令和2年度 ~ 令和4年度	
	評価項目	平均点
1	研究目標の達成度	4.0
[コメント] 国産飼料増産は急務であり、今後さらに必要性が高まっていく可能性がある。不耕起および簡易耕起栽培でも、耕起栽培と同程度の収量が山梨県でも可能なことを明らかにしており、当初の目標は達成できたと考える。更に使いやすく、また山梨県の気候条件に合った技術を確立してほしい。リビングマルチの技術をさらに改善し、除草剤の代替とすることでできれば、有機生産物への展開も見えてくる。		

研究種別	一般研究課題	
研究課題名	硝酸性窒素等の規制強化に対応した養豚汚水処理技術と浄化植物の利用技術の確立	
研究期間	令和2年度 ～ 令和4年度	
	評価項目	平均点
1	研究目標の達成度	3.8
[コメント] 温度等の条件は限られるものの、簡易的な手法で養豚汚水の硝酸態窒素が可能であることを明らかにしており、目標は達成できたと評価できる。今後、冬期間など条件が厳しい時期についても検討を行ってほしい。  汚水処理に関する技術開発は、今後の畜産経営にとって更に重要になると考えられる。研究を継続してほしい。		